バランス良くコミュニケーション力を伸ばす シラバスと授業実践を目指して

大 池 京 子

Ⅰ．研究の目的

小樽商科大学一般教養英語カリキュラムＢでコミュニケーション講座を担当して３年目になる。毎回学生がスモールステップで、ペアダイアログやディクテーションに始まり、徐々に一つのテーマについてまとまった意見を表現し、他者と積極的にコミュニケーションを取れるようになることを目指している。自他の係わりの中で相互理解を深め、所属するコミュニティーや、他地域で暮らす人々に共感を寄せながら、自分の行動を選択していく基盤となるのが一般教養であると考える。そうした講座の目標に照らした時、担当講座には、常に幾つか解決すべき課題が含まれていた。この研究ノートは、それらの課題を整理、再考し、真に講座が目標とする方向へ学生を導いていけるように、今後のシラバス作成と授業展開に活かしていくことを目指すものである。

ここ数年の授業実践で挙がってきた疑問は、１．どのようなバランスで講座構成要素の時間配分をすべきか、２．どのような活動を組み合わせると、学生は自信と意識を持った主体的なコミュニケーターに育つのだろうか、３．どのような手法を取れば、教師側の負担を妥当な量にできるのだろうか、４．節目ごとにProgress CheckとFeedbackを提供することによって、学生のプレゼンテーションの質は効果的に変容するのか、５．より現実に即したPresentationの評価方法はあるのだろうか、6.E-learningを利用して、より密接かつ双方向の学習支援体制を取ることは教員・学生の両方にとり有効であるのか、７．そして、講座全体が有機的に進む時、学生の現在と(近い)将来の英語コミュニケーターとしての成長を促すことができるのだろうか、の７点である。

Ⅱ．研究の手法（ツール）

平成22年度前期に担当したE126B(23名)とE127B(31名)を対象として、講座最終時に質問紙を配布し、そのデータを集積し、分析、考察することとした。ちなみに質問紙は、本学小林教授の作成された質問紙（1996）をベースとし、それに若干の修正を加え、30の質問項目からなるものを作成して(各項目について５段階評価とコメントを自由記述してもらう様式)使用した。２クラス合計54人の学生からの回答は、Quantitative（量的）と、Qualitative（質的）に分析された。量的分析法としては、各クラスの平均値を算出したものから、さらに２クラス合計の平均値を算出した。質的分析としては、学生からのコメントを誤字脱字の修正以外は、そのまま載せて考察を加えることとした。

Ⅲ．講座の展開（タイムライン）

初講時にシラバスを提示して学生に各週ごとの予想されるタスクを知らせた。講座のメインテキストはSpeaking in Public（成美堂）をベースとした。ペアダイアログや聴き取りを豊富に練

習しながら、発話力、カジュアルな文脈での会話から、徐々に身近なテーマに対するスピーチ、さらに様々な構成のエッセイへと展開していく。Thesis statement, Topic sentences, Transition signals, Restatement or summary of the thesis and Final commentという一般的なエッセイの構成についてOHCで提示しながら、２分間スピーチのスクリプト作成への導入とした。Speech実施は５月13・20日の２講義内で行われた。また、Speaking of Speechから抜粋した資料と、Basic presentation skillsに関するDVDを視聴しながらの実際の演習を通して、相手にメッセージを伝える際に配慮すべきPhysical, Story, Visualの３つのmessageについて強調した。６月からは、最終プレゼンテーションに向けて、Worksheets, Text, E-learning,掲示板を駆使して、全体のタイムラインを示し学生にイメージを与えつつ、そこに向かう一連のタスクを紹介し、作業の指示と必要なサポートを続けた。大まかなタイムラインを以下に示し、関連資料を最後に載せることにする。

抜粋　**Ｂ）主体的に＆時間管理しつつプレゼンテーションへの準備を。**

～これから予想されるScheduleは次のようになります。

6/3（木）	6/17(木)	6/24(木)	27(日)5pm	6/28~30	7/1(木)	7/1~6,9~13,15~20
Research	Presen	PPT	第１原稿提出 →	簡単な修正advice	PPT完成	IC recording
Topic &	Outline	(&7/1)	(E-learningへ)	→第２原稿作成へ--- →Rehearsal ------------ →		
B.S.メモ	提出	Workshop				
提出						
(リサーチ開始)						

7/8(木)	7/15(木)	7/22(木)	7/29(木)
Presentation1	Present.2	Present.3	*まとめ
←---------- Listener's sheet --------→			

最終プレゼンテーションに向けて、各タスクを織り込みながら徐々に必要なスキルを積み上げ、自信を高めていく、というアプローチを目指した。E-learningでは、毎週翌週に向けての連絡やタスクへのサポートを続けた。主な項目を挙げると、4/15: Guideline on a final presentation; 5/11: Speech script follow-up info. (Key points); 5/23: How to create a nice speech script toward a final presentation; 6/6: Presen. support info.-1(Research seeds→Research Qs & Method, Literature; 6/10: Presen. support-3 (Data management, How to gather info.-Citation, Advice on script writing, Emergency contact address; 6/13: Presen. support-4 (Task deadlines); 6/24: Presen. support-5 (Citation, Data saving with compatible mode, Computer lab. info.); 7/5: Presen. support-7 (IC recording support info., Presentation order & related necessary task, etc.); 7/6: Presen. support-8 (Advice in case you can't send your sound file via hotmail/yahoo)等、本学E-learning siteや掲示板の活用と共に、学部教務係スタッフのご協力を得て学生への1st draftをタイムリーに返却といったように、週1度しかキャンパスで学生に対応できない分、様々なライフラインを活用して大切な連絡の周知と学習支援を図った。

Ⅳ. 学生からのフィードバックの分析

1)プレゼンテーションとは何か、その手順と目的を理解できた。 **平均値：**4.13

1	2	3	4	5
全くそう思わない	そう思わない	どちらとも言えない	そう思う	全くそう思う

〔コメント〕 ＊［ ］内の数字は同様回答をした学生の総数 ＊/は同様他意見を示す

［6］良く理解できた。/理解できました。/プレゼンについて理解できた。/分かり易い説明でした。/プレゼンの準備の手順が分かった。

［ ］今まで、文章は書いてきたが、発表は初めてだったので、とても勉強になった。

［ ］英語でこんな長くプレゼンしたことがなかったので勉強になった。

［ ］楽しく発表できたし、これからのためになると思った。 ［ ］実際に行うことで理解が深まった。

2)プレゼンテーションの準備は完璧であった。 **平均値：**2.97

［6］練習はしたつもりだが、さらにすればもっと良いものができたと思う。もっと話す練習をすべきだった。/緊張して少し手間取ってしまったので、もっと自信を持てるくらいの練習が必要だと思った。/練習する時間をあまり取ることができなかった。/もう少し読みの練習をすればよかった。/準備をもっとしたかった。

［4］不十分でした。/少し覚えるのが足りなかった。/練習不足だった。/自分の準備の話なら、完璧ではありませんでした。

［2］時間的に余裕がありませんでした。/もう少し準備する時間がほしかったです。

［ ］調べて、原稿を作るところまでは完璧だったが、IC recordingが間に合わなくて申し訳なかったです。

［ ］Power Pointをもう少し増やせば良かった。

［ ］全くPresentationに参加できずにすみません。原稿が全くできなかったです。

［ ］他の教科との兼ね合いもあり、大変でした。 ［ ］計画的な準備が不可欠だと思った。

［ ］もう少し論の内容を深めることができたと思う。 ［ ］病気との闘い。

［ ］100%ではなかったけれども、しっかりと準備はできた。［ ］時間ギリギリまでかかってしまった。

［ ］不備があるのではないかと不安になった。［ ］早い週の発表だったので、時間が若干足りなかった。

［ ］途中でスラスラ読めず止まってしまった。 ［ ］準備し始めるのが少し遅かった。

［ ］今後また機会があれば、もっと完璧にして発表してみたいです。

［ ］発表していてグダった(=スムーズに流れない)ところが少しあった。

3)評価の基準(story, physical, visual message＋thorough research, logical content, clear voice, confidence)**は妥当であった。** **平均値：**3.98

［ ］英語が苦手な人でも努力が報われる評価だと思う。 ［ ］これ以上でも以下でもない評価基準。

［ ］Clear Voiceはもう少しいっていると思います。 ［ ］細かく分かれているので評価し易かった。

［ ］良いと思った部分もあるし、悪いと思った部分もあった。［ ］妥当であったと思う。

4)本番では上手くやれたと思う。 **平均値：**2.85

［9］緊張し過ぎた。Eye contactをもっと取りたかった。/少し詰まってしまったり、Visual messageをもう少し有効に使いたかった。/後はEye contactです。/緊張して上手くできませんでした。/緊張して、簡単なことも分からなくなってしまったり、失敗もあった。/緊張して、本文が頭から飛んだ。/結構テンパってしまっていた。/緊張して焦りが出た。/緊張してしまい、せっかくのIC recordingが活かせなかった。/練習したけど、緊張して下を向いてしまった。

［5］緊張したけど、まあまあ上手くできたと思う。/緊張したが、頑張った。/思った以上にスムーズに進められた。/上手いか分からないが、何とか乗り切った。/それなりにはできた。

［3］もう少し自分でも発表準備をすべきだったと思った。/読みをもう少しやれば良かったと反省。

［ ］Power Pointの説明をした後に、原稿を読むのが詰まってしまった。

［ ］準備に不手際があって残念だった。　［ ］言おうと考えていたことを言い忘れました。
［ ］熱を出してしまい、せっかく練習したプレゼンができなく悔しかった。
［ ］プレゼンに慣れたいと思いました。　［ ］もっと分かり易くできたと思う。
［ ］練習不足によるミスはあったと思います。
［ ］YouTubeが使えるか、一度試すべきだった。［ ］少し早口になってしまう。
［ ］自分が実際前に立って発表すると、思っていた通りにはなかなか進まなかった。

5）他人のプレゼンテーションや評価が気になった。　平均値：3.72

［4］他人のプレゼンは素晴らしかった。/上手な人のは本当に勉強になった。/やはり他人のスピーチはすごいところが多くて、驚いた。/他人のプレゼンを見て、良いなと思うところが一杯あった。/みんなしっかり伝えたいことがプレゼンに表わされていた。
［4］そこまで気にならなかった。/評価は気にならなかった。/Topicも発表の仕方も違うので、別にそう思わない。/気にならないわけではないが、ものすごく気になるわけではない。
［2］気になります。/基準が良く分からなかったので、他人の基準数字が気になった。
［ ］先生以外の人の評価も参考にしたい。［ ］同じクラスの方々のプレゼンの良いところを見習いたい。
［ ］他人の評価も、私の評価に関係するのかも気になります。

6）発表時間(7～８分)は適切であった。　平均値：3.65

［6］結構長いと思う。/少し長いと思います。/自分にとっては、ちょっとだけ長く感じた。/2人で14~16分は少し長かった。/少し長かった気もする。
［4］長かったが、やってみればそうでもなかった。/最初は長いと思ったが、やってみると丁度良かった。
［4］長くもなく短くもなく適切でした。/私的には丁度良かった。/結構良い時間だったと思いました。
［ ］自分が実際何分やったかが分からない。［ ］もう一分短いと、もう少し円滑に進んだと思った。
［ ］発表時間が最後の方にいくほど短くならざるを得なかった。
［ ］３人のグループは長く感じたので、２人までが良いと思います。
［ ］最後、授業時間内で終わってほしい。

7）プレゼンテーションに必要な器具や設備は十分であった。　平均値：3.83

［4］十分でした。/特に不十分だと感じたことはなかった。
［3］IC recorderが少なく、少し大変でした。/IC recorderの数を増やしてほしいです。/Voice recorderが足りなくて、録音する時間がおした。
［2］Office 2007で作って持ってくる時の作業がややこしかった。/パソコンのバージョンが古かったことが少しやりにくかった。
［ ］IC recorderを初めて使いました。　［ ］IC recorderがすごいと思った。さすが大学！！
［ ］良い環境でできた。　［ ］もう少し他の人とは違う工夫を取り入れたかった。
［ ］Power Point最高。　［ ］Power Point, Wordが2010 (version)になれば良い。
［ ］準備する時、スクリーンに映ったままなのは嫌だった。

8）グループプレゼンテーションでは十分協力し合うことができた。　平均値：3.95

［8］協力することで安心感が大きかった。/協力し合うってイイネ！/話し合ったりする時に協力できた/相手と上手く連携して準備できたと思う。/みんなと相談しながら仕上げることができた。/上手く分担することができて良かった。/2人でやることで仲良くなれたし、作業もスムーズにできた。
［ ］今度グループで活動してみたいです。
［ ］私が、内容や発表時間の長さでも迷惑をかけた(短かった気がする)。
［ ］良いプレゼンを行っていたグループが多かったと思います。
［ ］期間が短かったので、なかなかグループメンバーと会うことができなくて大変でした。

[ ] 頼ってしまうこともあったけど、楽しく作業できた。

9)本番前に原稿の添削について指導を受ける機会があり役に立った。 **平均値：**4.27

[9] とても役に立ちました。/本当に役に立ちました。/大いに役立った。/細かい所もしっかり添削してくれたので良かった！/人数が多くて大変だったのに、とてもしっかり添削していて良かったです。/一人ひとりの添削は、なかなかしてもらえる機会がないので良かった。/これは本当に助かった！先生、有難うございました！！/これがなかったら大変でした。/結構重要だったとも思います。

[3] 自分の書く文のクセや誤りを、理解し易いものにより良くしてくれた。/自分が気付かない誤りに気付けたのでよかった。/理解を深めることができた。

[ ] もっと添削を利用したかった。 [ ] 遅くなってしまって、すみませんでした。

[ ] もう少し原稿の字を読み易くしてほしい。

10)本番前に音読の添削について指導を受ける機会(IC recording)があり役に立った。 **平均値：**3.53

[7] 発音などについて、自分では気付かないところまで指示してもらえて、とても役立ちました。/本番前に発音間違えを注意されたのは良かった。/非常によくプレゼンに活かすことができた。/自分の問題点について詳細に聞けて良かった。/大変だったが役立った。/初めて自分の発音を聞けて良い機会だったと思います。/IC recorderは、本番前のかなり良い練習になった。

[3] 時間がなくて提出できなかったです。/レコーディングできなかったので､､。

[3] 慣れていないと大変でした。/操作が上手くいかなくて、先生に音源を送れなかったのが心残りです。/メールによる提出が上手く行えず、指導を受けられなかったので､。

[2] 本番一週間前位が良いと思う。/時間が少なくて、少し大変でした。

[ ] (自分の)IC recorderが壊れていて、メールで送信できなかったのが残念。[ ] やっていません。

[ ] 送れていなかったようで、パートナーに申し訳ない。 [ ] メールが来なかったです。

[ ] 役に立ったが、(学校のが)一台しかなくて大変だった。

11)本番後にも原稿の添削を受ける機会があればよいと思う。 **平均値：**3.31

[5] 自分で付け加えたところの原稿が気になりました。/スピーチ前に添削を受けて直したところが間違っている可能性が心配。/自分が直した原稿がどれほど適切に直されたかを知りたい。/1st draftの後に書き足した所とかが結構あったので、そういう機会があれば良いと思う。/2回目の原稿でも見てもらえるなら良いと思う。 [ ] なくても良い。 [ ] 良くなるとは思う。

[ ] 返却する時間があればやっても良いと思う。

12) Word listのハンドアウトは、発表理解の上で役に立った。 **平均値：**3.67

[6] 発表者のプレゼンが分かり易くなった。/理解が深まった。/分かり難い言葉があっても事前に知ることができたので、理解する上で役立った。/分からない単語があったので。/ハンドアウトは必要。/紙で配られないと覚えられない。

[3] 要らないと思う。/そこまで分からない単語やフレーズはなかった。/Key wordにする基準が少し曖昧だった気がします。

[2] 実際は、相手のスピーチに集中しているのでリストを見ていなかった。/紙を見ながら発表を聞くのは難しいと思った。

13) E-learningを使っての指示やサポートは役に立った。 **平均値：**3.88

[4] 良いシステムだと思う。/役に立ちました。/かなり役立ちました。/非常に役立つ。

[3] パソコンはあまり使わないので、パソコンで指示は出さないでほしい。/家にInternetが接続できる環境がないので不便だった。/長期的にパソコンが使えない人には辛い。

[ ] 役に立ちましたけど、パソコンに向かう時間がない時もあり、困った時もありました。

[ ] あまり見られなかった。　[ ] E-learningを見ないと大変なことになる。
[ ] 大事な情報を知ることができました。　[ ] E-learningへの指示が遅い。
[ ] 見忘れてしまうことがあったので、すみません。

14)講義回数に対して、プレゼンテーションに向かう日程配分は妥当であった。　平均値：3.29

[7] もう少し余裕があった方が、気持ちは楽です。/実際、時間がほしかった。/せめてもう1回ほしいです。/もう少し余裕が欲しかった。/少し足りなかった。/日程にもう少し余裕がほしかったです。/もう少し早く始めても良かったと思う。 [ ] 長過ぎず、短過ぎず良いと思う。
[ ] 少し足りないかとも思ったが、努力次第だった。　[ ] 家での負担が大きかった。
[ ] 初日発表の人には、少し厳しいスケジュールだったかもしれない。 [ ] 結構キツキツでした。
[ ] ちょっときつかったが妥当だった。　[ ] 人数をもっと考えた方が、、。

15)リサーチプレゼンテーションは楽しかった。　平均値：3.82

[3] 楽しかった。なかなか。　[ ] ひどく緊張して辛かったです。
[ ] このクラスでは、リスナーも盛り上げていく雰囲気で、とてもやり易かったです。
[ ] 自分の知りたいことは勿論、他人が調べたことも知ることができて良かったです。
[ ] 忙しくて大変だったが、充実した。　[ ] 大変でした。
[ ] プレゼンテーションは苦手です。　[ ] 仲間と協力しながらやるので楽しかった。
[ ] 始めは嫌だと思ったけど、最終的には楽しいと思えるようになった。

16)リサーチプレゼンテーションは自分の英語力を高める上でよい機会を提供してくれた。　平均値：4.12

[ ] もっと人前で喋りたいと思う。　[ ] 特に、英語を話すという力が高まった。
[ ] 長い文を作ることは、普段そう多くあることだと思わないので。[ ] 文法について詳しく学べた。
[ ] 前よりは高まったと思います。 [ ] 難しい所もあったけど、力がついた！
[ ] 良い機会を提供してくれた。　[ ] 英語力よりも、プレゼン力の方がついた気がする。

17)リサーチプレゼンテーションで英作文力が高まったと思う。　平均値：3.89

[ ] これからも英作文の機会を増やして質を高めたい。 [ ] 実感があまりないです。
[ ] 文法がまだまだです。　[ ] 少しは高まっていてほしい。
[ ] どちらかと言えばそう思います。　[ ] かなりアルク英辞郎を使った。
[ ] 細かいミスを添削で直してくれたので良かった。　[ ] 大変だったけど、やりがいがあった。
[ ] 長文を書く機会があって良かった。

18)リサーチプレゼンテーションで調音、発音、強勢、イントネーションが強化された。　平均値：3.45

[3] 上手くはできないけど、意識をするようになった。/発表中意識はしても、所々分からなくなりました。/ICレコーディングで指摘された所を直そうと努力した。
[2] 本番は緊張してVoice inflectionをあまり意識できなかった。/あまり意識できなかった。
[2] 上手くできたか自信がない。/自分ではあまり自信がありません。
[ ] 音声チェックが非常に参考になりました。 [ ] 強化された部分もあり、間違った部分もあった。

19)リサーチプレゼンテーションで即興での口頭作文能力が強化された。　平均値：3.13

[2] どうしても紙を見ながら読んでしまうので、あまり強化されなかった。/ひたすら読み上げるだけになってしまったので。　[2] 即興はまだ苦手です。/まだ少し考え込んでしまいます。
[2] ほとんどアドリブしてないです。/”即興で”というのはあまりなかった。 [ ] 少しは。
[ ] あまり上手く答えられなかった為。　[ ] 苦手な所です。

20)リサーチプレゼンテーションで聴解力が強化された。 **平均値：3.30**

[ ] 聞き取れない単語も多くあった為。 [ ] ずっと聴いていたので。

[ ] 正直言って、あまり聴き取れませんでした。[ ] 相手の伝えたい事は聞けたと思います。

[ ] 頑張って聞こうと努力した。 [ ] 楽しんで聞く余裕が少しできた。

21)リサーチプレゼンテーションで資料の探索、整理、選抜技能が強化された。 **平均値：3.57**

[ ] 探索技能がついた。

22)リサーチプレゼンテーションで度胸や自信をつけることができた。 **平均値：3.55**

[5] 人前で発表するのは良い機会だったと思う。/プレゼンの経験ができた。/自信がついた。/人前に出るのに慣れました。/一回目より二回目の方が緊張せずに自信を持ってできました。

[2] 1~2回で自信をつけるのは難しいと思う。/苦手なままです。

[2] もっと経験を積んで、自分の力に見合った自信をつけたい。/もっとやると、もっと良くなる気がします。

23)リサーチプレゼンテーションで発表した話題について理解が深まった。 **平均値：4.23**

[7] ２回とも興味深いテーマを選べて良かった。/自分も興味を持てる話題もあって面白かった。/深まりました。/興味を持ってリサーチできた！/カップラーメンにより興味を持ちました。/古着について知ることができた。/映画についてとても詳しくなれた！

[ ] 時間制限があるので、ほんの一部しか発表できませんでした。

24)リサーチプレゼンテーションで人前で発表することの難しさが実感できた。 **平均値：4.56**

[4] まだちょっと緊張します。/緊張した中で、声を大きくして、ゆっくり話すことは難かったです。/緊張した！！/かなり緊張する。

[3] かなり難しいと思った。/難しいし大変だった。/歯が立ちませんでした。

[2] 練習ではできていたことができなかった。/練習の時より、リズムや発音が上手くいかなかった。

[ ] もっと上手くなりたいと思いました。 [ ] 発表したかった。

[ ] 以前よりは慣れたと思うが、まだ自信はない。[ ] 難しさより、楽しさが実感できた。

[ ] あんまりみんな理解してくれているようには見えませんでした。

[ ] アイコンタクトやジェスチャーなど、理解してもらうためにやることは沢山あると思った。

25)リサーチプレゼンテーションを終えて、人前で発表することに抵抗がなくなった。

平均値：2.87

[6] まだ少し抵抗はあるが、前よりは緊張しなくなったと思う。/まだ。もう少しやれば抵抗はなくなると思う。/前よりは抵抗はなくなったが、やっぱり苦手。/少しはなくなった。/緊張はするが、あまり抵抗はありませんでした。/慣れました。

[3] まだまだ緊張します。/未だに緊張すると思う。/まだちょっと不安。

[2] まだかなり抵抗がある。/人前で発表する前が、まだまだ抵抗あります。[ ] 発表したかった。

[ ] あまりやりたくないと思っています。[ ] まだそこまでは慣れていない。

26)リサーチプレゼンテーションはもうやりたくないと思った。 **平均値：2.90**

[5] ぜひやりたい。/もっとチャレンジして自分の能力を高めたい。/大変だったけど、やって良かった/得るものは大きいです。/こういうの嫌ではないです。

[ ] もっと発音や内容に自信をつけていきたいと思う。[ ] やれと言われたら、やるかもしれない。

[ ] とても緊張しました。 [ ] 大変なことがあったので。[ ] 人前に出るのが苦手だから。

27)リサーチプレゼンテーションは大学の英語の授業に導入されるべきだと思う。 **平均値：3.78**

[5] 将来の役に立つ。/社会に出て就職した後で役に立つと思います。/こういう授業こそが必要だと思

う。/ぜひ導入されるべき。/楽しいし、将来役に立つ！

［3］それぞれの授業で個性を持って、生徒は自分に合うものを選んだ方が良いと思う。/する奴だけすれば良い。しないのがあっても良い。/義務にする必要はないと思う。

［ ］大学では英語をツールとして使う勉強をすべき。

［ ］忙しいけど、英語力はつくと思います。［ ］もっと幼い時(小学校等)からあると良いと思った。

［ ］せめてこれぐらいはした方が良いと思います。［ ］英語でやるということは重要だと思った。

28)機会があればまたこの授業を履修したいと思う。　　平均値：3.81

［2］来年も受講しようと思う。/また受けたい。　　［ ］授業にもう少し余裕がほしい。

［ ］次はもっと上手にプレゼンする。もし機会があれば。［ ］再履修は勘弁して下さい。

［ ］大変ではあったけど、面白かったし、友達も増えた。［ ］良い経験になったので。

［ ］自分の好きな内容を調べて英作するのは楽しかった。［ ］やはり人前で話すのはまだまだ苦手です。

［ ］プレゼンはちょっと苦手だけど、楽しい授業でした。

29)友人、知人にこの授業を勧めたいと思う。　　平均値：3.91

［2］来年の新入生に必ず勧めると思う。/プレゼンが好きな人ならぜひ勧める。

［2］授業が楽しいかどうかは主観によるので。/その人の個人の力や好みもあるので一概には言えない。

［2］とても楽しく授業ができて良かったです。/楽しかったので。

［ ］英語でプレゼンするということは、なかなかないと思うので。［ ］忙しかったので。

［ ］授業をもう少し効率良く進めてほしかったです。［ ］少し辛いが得るものが非常に大きい。

30)今回プレゼンテーションを通して学んだことを、これからの英語学習や似たような機会に活用していきたいと思う。　　平均値：4.50

［ ］社会に出ても役立てていきたいとおもいます。［ ］本当に役に立つ授業だと思った。

［ ］プレゼンテーションする時に役立てていきたいです。［ ］将来的にも英語でのプレゼンは必要ですし。

［ ］英語のじゃなく、日本語のプレゼンにも活かせると思った。［ ］今後の英語学習に必要。

［ ］人前で「話す」ということに重点を置き力をつけたい。　［ ］学んだことは多くありました。

［ ］忙しい中、添削等ありがとうございました。楽しかったです。

［ ］授業楽しかったです。ありがとうございました！/すごく楽しい授業でした。本当にプレゼンテーションは良い経験になりました。このクラスで良かったです。ありがとうございました。

［ ］せっかく授業を受けたので活かしていきたいと思います。

［ ］社会に出たらプレゼンテーション等をしなくてはならないので、この授業で学んだことを活かせるようになりたい。

［ ］この授業は将来への「実学」としてとても役立ったと思います。プレゼンなんて恥ずかしい、面倒だ、と思う人もいるかもしれないけど、私はやって良かったと思っています。社内公用語を英語にした企業もあるらしいし、いつか仕事で英語のプレゼンをしたいです！！

V. 考察と次年度へ向けて

学生からのフィードバックを基に、この研究の発端となった講座の課題に考察を加え、改善の方途を探ってみたい。(1)講座構成要素の時間配分は、Presentationを講座の要素にする場合、他の学習活動と並行して、やはり４月の早い時期にスタートを切る必要がある。大きな反省点である。RapportによるLearning community作りや授業のflow作りといった大切な要素が混在する時期ではあるが、４月中にPresentationのガイドラインをより詳細に提示し、講座の全体像を示

すことで、各タスクが有機的に関連し、最終目標のプレゼンテーションに結実するという認識を学生に持たせたい。(質問1, 2, 14への回答参照)。また、人数やその目的上、発表時間も5分程度で良いと思われる。オリエンテーション後、14回(例年大学行事の為13回)の講座の中で、如何に学生に自信をつけさせ、またaudienceを意識した発表者へと意識変革を促すようなタスクを組んでいくかは、大きな課題である。毎週の課題の工夫や、授業で取り組む会話や交流活動をさらに精選し、少し余裕を持って、より自然な学習スパイラルの伸長を図れるよう工夫したい。(2)自信と目的意識的なコミュニケーターの育成に関しては、先の1)や後述の4)に密接に連動している。(質問2, 4, 5, 22, 24, 25, 26回答参照)。講座では、「発表は双方向のcommunicationである」と強調し、Supportiveな雰囲気作りを心がけているが、学生は、人前で発表する時かなり緊張し、メッセージを伝えることの難しさを実感していたようだ。Neff (2009)は、分析を基に"...anxiety is the more significant variable contributing to presentation performance (than motivation)."と指摘している。一方、藤田、山形、竹中(2009)は、授業観察とアンケートに基づき、人前で話すプレッシャーや発表成功への思いは、「ある状況下においてできるようになりたいというインストラメンタルな動機づけ」を与えるとし、緊張を自信や動機づけに変容させる要素として、自分の発表を録画視聴する場や、Peer Support (editing, presentation, evaluation時)を挙げている。担当クラスのPeer evaluation sheetでは、「全部面白かった。参加型のプレゼンだったので、楽しく見られた」「グラフ、写真など多くの要素を取り入れていてとても分かり易かった」「(PPTの)人間が動く絵が本当に良かった。自分も真似したい」等、互いの努力を見つけたり、改善に向けアドバイスを述べる等、温かくポジティブなコメントが目立った。コメント入りのPeer evaluation sheetを早めに発表者に渡したり、現行の発表後のQ&Aタイムを工夫する等して、個々の学生の自信につなげたい。次に(3) (4)教員側の負担として、Speech原稿の添削と、IC recordingの音声添削が大きかった。しかし、これらは同時に、個々の学生に対応し、その成長に向け個別にサポートをする大切な機会でもある。(質問9,10, 17, 18回答参照)。第１原稿添削では、日程の関係で時に提出から中３～４日で、返却する必要があり、今年度はテンプレートを使い、修正アドバイスを示したり、具体的に修正を書き出したりして、郵送や電子データで返却した。来年度はPeer editingの機会を授業内に設定し、より能動的にwritingに取り組ませたり、テンプレートを充実させ、構成や表現上の共通課題を示して、文章表現力の強化を図りたい。また、IC recordingを使ってのリハーサルは、researcherからpresenterへの意識変化をもたらすのに重要なステップと考える。今年度は各発表週の前に３日間ずつ録音期間を割り当てた。以前NIC(略称ネバダ大学日本校)でterm-longのTopics Projectを織り込んだカリキュラムで展開するListening/Speaking講座を担当した際の経験からも、このリハーサルステージの有無は、final performanceに大きな質の変容をもたらすと思われる。時間枠の中で、audienceを意識し、メッセージを如何に分かり易く伝えようかと心を配る時、発表者は、一歩高い段階のコミュニケーターとして成長するであろう。その意味からも、今年度リハーサルの代替活動として取り入れたIC recordingと、音声添削は、今後も続けていきたい。もう少し余裕のある日程で、また機材についても携帯電話等の録音機能の活用可能性を調べ、より円滑に進めたい。(Sound check サンプル資料参照)。(6) E-learningの活用は、講座のライフラインであった。(質問13回答参照)。授業内での周知は当然であるが、各段階で課題の達成状況を確認したり、学生からの質問に対応し、次のステップに向けガイドする学習支援ツールとして大変役立った。来年度も継続したい。(5)より実用的なPresentation評価法の模索は、来年度も継続課題である。(質問3, 5回答参照)。

今年度は、言語センタースタッフのご協力のもと、教員が実習室でPresentationをビデオ撮影し、評価に活かそうと試みた。数名の学生にTime keeperをお願いし、発表中の円滑な評価を試みたが、発表までの取り組みの観察や、評価シートの改善も含め、さらに工夫が必要と思われる。ちなみに撮影映像は、言語センタースタッフのご協力で、後日DVD化して頂いた。大変感謝している。

特筆すべき反省点として、Computer Laboratoryでコンピューター操作の指示やPower Point作成法を伝える際、英語の量を大きく減らしてしまったことが挙げられる。来年度はこの部分も英語の量を増やし、学生へのInputに変えたい。

最後に、(7) 英語コミュニケーターとしての学生の成長を促す講座作りに関して言えば、総じて、学生はこのPresentationというprojectを通じて、いろいろな気付きをしていた。(質問４, 23, 24, 25, 30回答参照)。藤田、山形、竹中(2009)は、学生が(プレゼンテーションという)未知の分野の経験を積むことで付けた自信は、自律した学習に結びつき、さらには次なるプレゼンテーションへの動機づけにつながると述べている。「今度は〜したい」「~できず悔しかった」等のコメントは、実際に発表に 取り組んだからこその思いであろう。「もっと上手くなりたい」という思いは、きっと将来、彼らがコミュニケーションへの取り組みをする際、後押しをしてくれるエネルギーに変容していくものと期待したい。今後も、他者と積極的に対話、交流する中で、学生がさらに深く自己を見つめ、新たな目標に向けて成長しようとする動機付けとなるような講座作りに努めていきたい。

参 考 文 献

Fujita, R., Yamagata, A. & S. Takenaka. (2009).学生の意識変化に見る英語プレゼンテーション授業の有用性. 東京経済大学人文自然科学論集(128), 35-53.

Hagley, E. (2004). Japanese student perceptions of the use of recording devices within an English as a foreign language program. *JALT Hokkaido Journal,* Vol.8, 20-32.

Harrington, D. & LeBeau, C. (1996). *Speaking of Speech.*　Tokyo: Macmillan Language House.

Kobayashi, T. (1996).大学一般教養英語におけるリサーチプレゼンテーション導入の試み—小樽商科大学英語IIでの実践報告－. *Language studies*:言語センター広報. 4:41-80

Matsuda, M., Ogawa, N., Son, C. & S. Oh. (2010).　ICレコーダーによる録音を中心にした英語スピーキング力の養成－長崎大学環境科学部における事例研究－.長崎大学総合環境研究. 12(2), 43-55.

Neff, P. (2007). The Roles of Anxiety and Motivation in Language Learner Task Performance.言語文化.10(1), 23-42.

Nkombalume, R. (2006). Second Year Presentation Classes: An Approach to Develop Communication Fluency. 国際英語学部紀要. 7/8, 49-53.

Sato, T. (2006).オーラル・プレゼンテーションを通した英語４技能向上の試み.言語と文化. 8, 31-41.

Shimozaki, M. & Suzuki, Y. (1994).リサーチ・プレゼンテーション・ディベート－慶応大学湘南藤沢キャンパスでの自己表現のための大学英語教育の試み－. JACET全国大会要綱. 33, 298-299.

資　　料

April 15, 2010

E127B　Guideline on a Final Presentation

Though it will be a rather small-scale presentation this time, this project aims at your learning, 1) how to prepare for a presentation from scratch, and 2) how to deliver a presentation through actually doing it. Along the way, you will learn 3) effective ways to combine the three messages of speech, i.e., story, visual, and physical messages. We will work on Thursdays in class period. You will also have to work a lot on your own after school to well prepare for the final presentation. Good luck!

Project Guide

1) Choose your partner/group members. Decide on a research topic you are interested in; it could be something informative or persuasive, e.g., something you want to introduce to the class or one of social issues. Be sure you can get enough information for your topic as well as you narrow down the topic well enough to tackle the topic within a time limit. Bring your topic to the teacher for approval.

2) Make an outline of your topic: What points will you include? Include enough information to be able to give a 7-8 minute presentation (each person). Each student must speak an equal amount of time. (+ prep: 1 min.; Q & A: 1 min.)
Write 4 to 8 questions (in English) to bring to research, including an interview, book reading, Internet search, and/or a questionnaire).

Deadline: June 10 (in class)

3) Do your research within the next 14 days. Use the library, public libraries, Internet, etc. Work each week from your outline.

4) Write a list of your sources (people, books, URL, videos, photos, maps, etc.) Use the form given.

5) Make visual aids (preferably by Power Point since it's easy and simple enough to make within a limited time, but of course other forms of visual aids are OK.)
\+ a handout with (outline &) key words in J & E

6) All writing, drawing, etc. finished.
→ PPT: 7/1 (E-data)
→ 1st draft due: 6/ 27, 5 p.m. (E-learning)

Deadline: June 27 & July 1

7) Practice speaking in class on Thursdays and with partner / group members outside of class.
Remember: your grade is for Speaking & other messages.
・Rehearsal　・IC recording
→ ＿＿＿＿, ＿＿＿＿, ＿＿＿＿

Deadline: July 6 ~ 13

8) Give your presentation. Date: **July 8, 15, 22 (in CL)** (E-mail: kyo128@hotmail.com)

資料 2.

Presentation Outline

Topic: ____ &

Members ____

Content　　　who　　　how long　　　visual

I.　Intro: What topic, why, overview(outline)

II.　Body: A:

B:

C:

III.　Conclusion: Summary of the main points, final comments of the team

IV.　Q & A

~~~~~~

資料 3.

＜ Schedule ＞

I.　Research (Individual/ group of 2-3)　　Due:

---a) discuss and make questions to research for → make an outline

b) read materials and take out key points (in your own words)　　__________

II. Make Visual Aids

---a) Power Point, or

b) a realia/ poster/ video/ picture/ role play, etc.

c) handout with key vocabulary words in J & E　　__________

III. Write Your Speech Script (for a 7-8-min. speech per person)

---a) write　　__________

b) get it checked　　__________

IV. Practice

---a) record into a tape

b) rehearsal #1 as a group　　__________

V. Presentation (teamwork, each amount of speaking time, 3 messages)

＊Enjoy it!

____

(Note)

1. Have all the materials with you Every Thursday.
2. Keep to the due dates.　Try not get behind schedule; it would hurt your group.
~~~~~~

3. Avoid copying a lot from the original source; cite and/or try to use your own words.
4. Try to use English for practice; think in English.
5. If you have any questions/problems, let me know.
   Good Luck!

**** Presentation Checklist**

Have you…

______ ---made an outline for your speech? ______ ---written a good speech script?

______ ---checked any (key) vocabulary (spelling/pronunciation) which the audience may not know?

______ ---got the script checked by the teacher?

______ ---got the tape recorded voice checked by the teacher?

______ ---practiced the speech for your part?

______ ---prepared good visual aids?

______ ---practiced the speech as a group? ______ ---checked the time & flow?

Oike, OUC

~~~~~~

資料 4.　IC recording sound check (sample)

(Voice) Common Areas You Can Work on toward　the Final Presentation

＊～修正の参考にして下さい。

・先ず**口を大きく開き、声に思い（メッセージ）を乗せるよう**心がけましょう。
　～内容で事実の列記箇所が多いので、意味のまとまりごとに抑揚（上下）や間合い（ポーズ）を意識すると、リスナーにさらに伝わり易くなります。

・voice volume はさらに大きく 120%に。
　～息を大きく吸い、口を大きく開き息を前に飛ばすことで。

1・**phrasing**（＝述部、主部等の区切り)を意識し、全体に、**もう少しゆっくりめに**語ろう！
　～リスナーが音声メッセージをプロセスし、理解しながらついてこれるように。
2・pausing(=意味のまとまりごとの phrasing のあと、意識して少し**間(ま)**をおくようにしよう！
3・key words にさらに **stress** を置き、強調するとリスナーに伝わり易くなります。

上記 1~3 を組み合わせると、、　例)　I **got** up/ at **7** this **m**orning/ and **ate** **b**reakfast/ at **7:30**./

・個々の発音／アクセントの位置チェックと練習を～「consequently」「Aladdin」　[th..(these, that)]
「studio」「awarded」「prize」「Chronicle of ..」など key words
・Grammar 他

～さあ、あとは練習あるのみ。大きく深呼吸し、リラックス by たくさん練習することで大丈夫。Good luck!

Oike
~~~~~~